

審査の結果の要旨

氏名 鮑 威

世界各国において高等教育の大衆化は、伝統的な高等教育機関の外に、周縁的な高等教育機関を加えることによって進んできた。こうした周縁的な高等教育機関は、一般には地位が低い代替的な高等教育機会として位置づけられるが、他方で新しい進学需要と労働需要に対応した教育特性を発展させ、それがやがて高等教育システム全体の機能の変質をもたらす。中国では改革開放体制の中で、既存の国公立高等教育機関に加えて、新しい制度として民営の高等教育機関を許容し、それが急速な高等教育大衆化の担い手として重要な役割を果たしてきた。しかしそうした機関は周縁的な代替機関として一括されるだけで、その社会的・教育的な機能については十分に理解されてこなかった。そうした観点から本研究は、中国の公立・民営高等教育機関のべ 26 機関に在籍する学生約 2000 人（調査票配布数約 2500）に対するアンケート調査をもとに、民営高等教育機関への進学者の特性、機関の特質、そして卒業生の雇用を実証的に明らかにしようとするものである。

序章では先行研究が非伝統的な高等教育機関の階層性を強調する反面で、その独自の教育機能に十分に注目してこなかったことが指摘されている。第一章は、マクロ統計をもとに中国の高等教育拡大に民営高等教育機関が重要な役割をはたしてきたことを示している。

第二章では民営高等教育の入学者の特性に焦点をあて、公立大学の入学者と比べると、多様な社会階層の出身者が多いが、とくに都市周辺、農村の自営業者の家庭の出身者が多いことに特徴があることを見出している。第三章は進学動機を分析対象として、民営高等教育機関の中でも一部（「二級学院」と「民営学院」）においては公立大学の代替として選択されているに過ぎないが、その他（「職業技術学院」、「専修学院」、「独学試験校」）では具体的な職業能力の獲得、卒業後の就職機会の位置づけから積極的な選択が行われていることを指摘している。第四章では民営高等教育機関の教育についての学生の評価を分析し、上に述べた学生の進学動機と教育特性が対応していることを見出している。

第五章、第六章は学生自身の能力の自己評価、就業状況についての分析をつうじて、職業技術学院、専修学院などの卒業生が、自らの能力について独自のイメージを持ち、またこれまでの大卒者とは異なる労働市場で就職していることを見出している。

以上の分析を通じて本研究は、中国における民営高等教育機関が、伝統的な高等教育機関に対して劣位の代替教育機会を提供するだけでなく、教育的な特性を分化させることによってそれまでにない進学需要と労働需要に対応していることを示している。民営高等教育機関が多様である一方で調査の対象機関が限られていることから統計的推論に限界があることが指摘されたが、入手したデータについては統計的な手法を駆使して緻密な分析を行っている点、これまでの研究にない新しい実証的貢献をおこなった点は高く評価された。このような観点から博士（教育学）の論文として十分な水準に達しているものと認められる。